

研究タイトル：

## 科学技術と人間社会



氏名： 大家 慎也 / OIE Shinya E-mail: ooie\_416@kurume-nct.ac.jp

職名： 助教 学位： 博士（学術）

所属学会・協会： 1. 日本現象学社会科学会 2. 応用哲学会 3. 科学技術社会論学会

キーワード： 技術哲学, 自律論

技術相談： ・科学技術の倫理学

提供可能技術： ・善く生きることと技術の関係

### 研究内容： 科学技術と人間社会の関係を考える

私はこれまで科学技術と人間社会の影響関係についての哲学的検討をおこなってきました。

科学技術は人間社会のあり方に密接に関わっています。しかし、これらの関わりについて探求するための厳密な方法論は確立していません。私は上記した問題を受け、次の二点について概念を整理し、理論を構築することでこの問題に取り組みました。まず①科学技術の民主化の探求。すなわち、科学技術との関係において、人間が自身の問題関心を当該の科学技術へと反映させる仕方の探求です。そして二つ目に、②科学技術との関係における自律の探求。すなわち、科学技術に影響を受けつつも人間が自律的に自らの生活を形作る仕方の探求です。

①においては、私は次の二つの研究をおこないました。すなわち、日本国内におけるアスベスト被害の具体的な事例研究。そして、科学技術の民主化にかんする理論的研究です。

②においては、私は次の二つの研究をおこないました。すなわち科学技術による人間生活の統治がいかなるものか明確化する研究。および、そのような統治のもとで発揮される人間の自由と自律性がいかなるものか示す研究です。

今後、私は次の二つの研究計画を実行する予定です。

#### 【1】技術との関係における自己批判・自己改善としての自律の探求

私は、これまで人間の自律と技術との関係を調べてきました。私はこの研究を今後も発展させて、応用倫学分野における研究を遂行する予定です。その際に、人間の身体と人工物のカップリングが果たす機能に注目します。そして、こうした人間と技術の不可分な関係性において、人間が自らのあり方を批判的に反省し、自らのあり方を改善してゆくこととして自律の能力を再考します。

#### 【2】ネガティブエミッション技術の ELSI の研究

ネガティブエミッション技術はカーボンニュートラルのための有望な方法ですが、他方でいくつかのELSI(倫理的、社会的、法的課題)をもつことが知られています。すなわち、モラル・ハザード（緩和策や適応策などの他の代替策を取り入れるインセンティブを喪失させること）のリスクなどです。私はこうした諸課題を包括的に理解し、ネガティブエミッション技術の研究開発のあり方を方向づける応用倫理学研究を行うつもりです。

### 提供可能な設備・機器：

名称・型番（メーカー）